

## トピックス

# 「アスタリフト」シリーズ 欧州市場にも展開



ASTALIFT

日本国内で好評を得ている機能性化粧品「アスタリフト」のスキンケアシリーズを、平成24年3月からフランスでも販売開始します。平成22年9月に中国で発売して以来、これまでにシンガポールなど東南アジアにも販売地域を拡大してきました。

今後はフランスに加え、イギリス、ドイツ、スペインでも順次展開し、スキンケア市場が約1兆8,000億円といわれる欧州で販売地域を拡大していきます。

## + 写真フィルムで培った技術を武器に、 フォトジェニックな肌へと導きます

「アスタリフト」に平成23年9月から、光をコントロールしてどんなシーンでも最適な肌色を演出するベースメイクシリーズが加わりました。平成24年3月1日に発売した新商品「ライトアナライジング メラノレタッチ コンシーラー」にも、写真技術のコアとなる「光」に着目して開発した、肌表面で光をコントロールする光学粉体「ライトアナライジングパウダーS」を配合するなど、当社の独自技術が盛り込まれています。



ライトアナライジング  
ベースメイクシリーズ



ライトアナライジング  
メラノレタッチ  
コンシーラー

## + 海外市場と競争力の高い商品で 売上拡大に取り組みます

「アスタリフト」は、富士フイルムが写真フィルムで長年培ってきた抗酸化技術、コラーゲン研究、ナノテクノロジーを活かして開発したエイジングケアのためのスキンケア化粧品シリーズです。抗酸化作用が強くコエンザイムQ10の約1,000倍の美肌パワーを持つ「アスタキサンチン」と、肌のうるおい成分である「コラーゲン」を配合し、平成19年の発売以来、ハリと輝きに満ちた素肌へと導くスキンケアシリーズとして多くの女性から高い支持を得ており、売上を大きく伸ばしてきました。

今後も、海外市場での販売地域拡大と競争力の高い商品で、売上拡大を目指します。

## トピックス

### 超高画質レンズ交換式プレミアムカメラを発売 「FUJIFILM X-Pro1」

発売以来、国内外で数々の受賞を重ね、10万台を越すヒットとなった「FUJIFILM X100」をはじめとする高品位・高画質を追求したデジタルカメラ「Xシリーズ」。このシリーズのラインアップとして、超高画質を実現するレンズ交換式プレミアムカメラ「FUJIFILM X-Pro1」と、交換レンズ「フジノンXFレンズ」3種を平成24年2月に発売しました。デジタルカメラ市場において出荷数量が前年割れとなる中、当社は中高級機種の販売好調を受け、販売台数が前年を上回っています。今後もXシリーズで築き上げた高級機種でのブランドイメージを活かし、デジタルカメラの売上とシェアのさらなる拡大を図ります。



- 「FUJIFILM X-Pro1」の卓越した特長 ●●●●●
- 独自のカラーフィルター配列でモアレや偽色を低減した「X-Trans CMOSセンサー」と、「EXR プロセッサーPro」を搭載し、最高峰の解像感と低ノイズを実現。
- 色収差を徹底的に抑えたこだわり設計の「フジノンXFレンズ」と、レンズ後端からセンサーまでの距離を極限まで短縮したオリジナル「Xマウント」で画面の隅々までより高い解像感を実現。
- 「ハイブリッドマルチビューファインダー」により、装着したレンズの焦点距離に合わせて光学倍率とフレームサイズをカメラが自動調整する機能を装備。

◀ ここから開いてください

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成23年度第3四半期累計期間（平成23年4月1日～12月31日）の当社の連結売上高は1兆

6,185億円、営業利益は856億円、当社株主帰属四半期純利益は237億円となりました。新商品の投入や新興国市場の成長に対応し拡販施策を強化したものの、為替の円高や、原材料価格の高騰、震災による国内需要減、欧州景気の停滞、タイの洪水などのマイナス影響を受けました。

こうした中で、当社の業績は計画を下回って推移しています。これらの状況を踏まえ、通期の連結業績予想について、売上高は2兆2,000億円、営業利益は1,100億円へ下方修正いたしました。厳しい事業環境ではありますが、当社は、昨年10月に発表した中期経営計画を着実に遂行し、成長戦略を強力に推進していきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成24年3月  
代表取締役社長 CEO

古森重隆

## 平成23年度第3四半期(9カ月)連結決算のポイント

売上高 1兆6,185億円(前年同期比2.0%減)  
(為替影響額を除いた前年同期比は0.4%増)

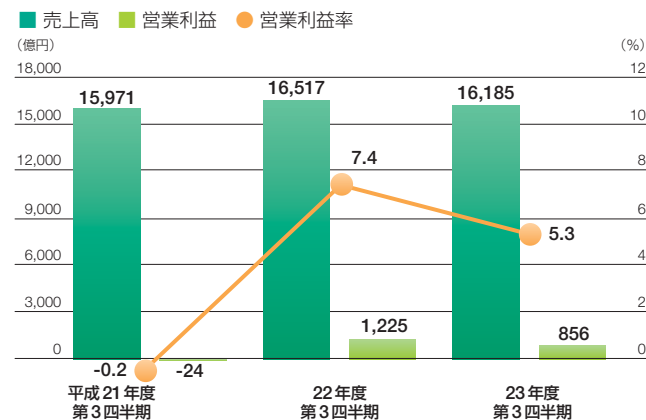
- + 新商品投入や新興国などへの拡販施策を強化
- 為替の円高、震災による国内需要減、欧州景気の停滞、タイの洪水などのマイナス影響

営業利益 856億円(前年同期比30.1%減)

- 為替の円高や原材料価格の高騰によるマイナス影響

当社株主帰属四半期純利益 237億円(前年同期比59.4%減)

### 第3四半期(9カ月)連結業績の推移



### 年間配当予想

第2四半期末(実績) 17円50銭  
期末 17円50銭  
年間配当額 35円00銭